



第 30 号

2001年3月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



河川から出土した建築部材

津島遺跡の発掘調査

平成17年には岡山国体の開催が予定されています。このため、岡山県では国体の主会場となる岡山市津島の岡山県陸上競技場を改修することになりました。

これに伴い、岡山県古代吉備文化財センターでは、平成12年1月から12月にかけて対象となるメインスタンドおよび照明塔部分の5,200㎡の発掘調査を実施しました。

この調査の結果、弥生時代前期から近世にか

けての数多くの遺構・遺物を検出することができました。

弥生時代前期では、ほぼ全域で水田が検出されています。また、水田には水路の存在も確認されており、この水路と水田の畦畔は全体の方向性として、地形に平行した在り方を示します。

水田が埋没した後の弥生時代中期から後期にかけては、竪穴住居や溝、袋状土壌のほか埋土に多量の炭化米を含む土壌などを検出しました。

また、弥生時代中期末の溝の最上層からは、ほぼ一体分の人骨が検出されました。

弥生時代後期後半になると、南北に長い調査区の中央部には、北東から南西方向に幅約50mをはかる河川が存在し、中世頃まで同じ場所を流れていたことが分かりました。

この河川の中からは、弥生時代後期後半を中心に多量の土器や約1,000点にのぼる木製品、桃やウリの種子などの植物類、貝類、骨などが出土しています。

中でも、河川斜面部から出土した木製品は種類も多様であり、斧・鍬・鋤などの柄や鍬、えぶり、竝杵、碇、代掻きなどの農耕具、盾や刀装具などの武器、杓子や匙、容器（槽）、蓋などの食事具、火鑽臼、用途不明の装飾板などのほか建築部材を検出しています。

特に、建築部材は梯子やホゾ穴をもつ柱など



河川から出土した代掻き

が1か所から集中して出土したことから1棟の建物の大部分がそのまま残っている可能性も指摘されており、注目を集めています。また、少し離れた地点では扉の一部や屋根材も検出されました。

古墳時代では多数の住居のほか、井戸、掘立柱建物、土塼などが重なった状況で検出されており、居住域として利用されていたようです。また、河川肩部付近においては須恵器の杯身3点が整然と配置された状態で出土しました。

古代から中・近世にかけては溝が多く検出され、そのうち条里地割に関連する大溝も検出できました。

このように津島遺跡では多くの遺構・遺物が確認されています。中でも河川から出土した弥生時代後期後半の木製品は県下においても類例が少なく、当時の木工技術の水準を考える上で貴重な資料になりました。（中島和哉）



弥生時代前期の水田



河川から出土した装飾板



古墳時代竪穴住居の重複関係

岡山城二の丸跡の発掘調査

岡山市丸の内2丁目に所在した岡山市立丸之内中学校は、同旭中学校と統合され、平成11年3月に廃校となりました。その跡地に県立図書館の建設が計画されたことから、平成11年10月から平成12年2月にかけて、遺跡の現状を把握するために確認調査をおこない、その結果にもとづいて平成12年10月から平成13年3月までの予定で、発掘調査を実施することになりました。

調査では、近・現代から古代までの遺構が検出されましたが、ここでは、この場所が岡山城の玄関口としての役割を果たしていた頃の遺構について紹介します。

岡山城二の丸は内堀を隔てて内郭と外郭にわかれており、外郭の北東部にあたるこの場所は、江戸時代の絵図によれば、「榎馬場」と呼ばれる東西47間（85m）、南北35間（63m）の広場であったことがわかります。

広場の名前の由来となった榎の木の跡は、今回の調査ではその存在を確認することができませんでしたが、広場のほぼ中央に、排水施設と思われる遺構が見つかりました。遺構は一辺2m、深さ80cmの石組みの枠で、こぶし大の河原石が詰めこまれていました。その枠から北側の内堀に向かって、石組みの溝が伸びており、これらが一連の排水施設（暗渠）であったと考



調査区全景（北東から）

えられます。

内堀に面した広場の北辺は、石垣を持たない素掘りの状態になっていました。一方で、東辺には石垣が築かれていましたが本来は内堀にかかる外目安橋の橋台部として築かれたものようです。このような状況になっていたのは、江戸時代を通じて広場として利用されていたため、周辺の屋敷地などとは違い、護岸としての石垣が必要とされなかったからであると考えられます。絵図の中には、広場の北辺に石垣の描かれていないものもあり、改めてその様子が確かめられました。

内堀にかかる外目安橋は、明治時代に取り壊されましたが、解体に際して切断された橋脚の基部が掘底で見つかり、橋の規模や構造を推定する手がかりを得ることができました。発見された橋脚は14本ありますが、複数の時期にわたっているようで、このうち最も新しい時期についてみると、直径40cmほどの針葉樹の丸太3本を2.7m間隔で掘底に打ち込み一対の橋脚としています。橋脚間の距離は4.5mあり、3.8mという内堀の全長からして七対の橋脚で支えられたものと推定されます。

このように、今回の調査によって、絵図に描かれた様子が確かめられる一方で、新たな知見も数多くあり、岡山城の姿を復元するうえで貴重な資料になるものと思われます。

（白神賢士）



榎馬場の排水施設（南から）

センターの年間事業（平成12年度）

調査第一課

平成12年度の調査第一課は、課長、第一係9名（うち市町村から1名）、第二係10名の計20名、他に文化課兼務・岡山市派遣各1名からなり、埋蔵文化財の普及啓発、報告書の整理・刊行、発掘調査（試掘・確認）、分布調査などの事業に対応しました。

4月27・28日には全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会の総会が福岡市埋蔵文化財センターで行われ、当センターの正岡睦夫所長が新会長に就任しました。今後とも、埋蔵文化財の保護・保存につきましてもの御協力・御助言・御鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

さて、普及啓発事業は8月5日に市町村教育委員会の協力を得て、第13回目の「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査の報告会」を岡山県生涯学習センター大研修室にて行いました。

発掘調査事業では、本誌8頁に掲載した遺跡（2～14）を第一係が対応しました。試掘・確認調査（2～11）と発掘調査（12～14）の13件、第二係は、第60回国民体育大会の主会場に関連する津島遺跡の全面発掘調査（15）、確認調査（16・17）の3件を行い、2係で16遺跡11,366㎡の発掘調査を実施しました。

報告書の刊行は、昭和36～38年に実施された県総合グラウンド北池・南池地点（津島遺跡）、県営圍場整備（平田遺跡）、県道西大寺備前線交差点改良（船山遺跡）、主要地方道箕島高松線改良2・3（上東遺跡）、一般国道429号改良（金井戸・見延遺跡ほか）、県北流通センター地滑り工事（旦山遺跡2）、一般国道53号津山北バイパス建設（二宮遺跡）、特別史跡旧閑谷学校環境整備（旧閑谷学校）を行いました。

報告書の整理は、岡山自動車道4車線化（高松田中遺跡ほか）、岡山県陸上競技場改修・国体関連整備（津島遺跡）、平田遺跡、二宮遺跡、旧閑谷学校、県総合グラウンド内北池・南池地点（津島遺跡）を行いました。

分布調査関連では、本年度が県内遺跡詳細分布調査事業の3年目にあたり、岡山市、高梁市、

新見市、上房郡、川上郡、阿哲郡の3市10町を対象とし、10月から関係市町村教育委員会ならびに県内研究者の皆さんの協力を頂き現地踏査を実施いたしました。2月末までの集計では1,000件を前後の遺跡が新たに発見され、昨年度とほぼ同様の増加数になると思われます。〈旧閑谷学校〉

本遺跡は特別史跡旧閑谷学校環境整備に伴い、平成13年1月から平成13年3月まで確認調査を実施しました。備前市閑谷（旧閑谷学校広場）に東西6本、南北5本のトレンチ（120㎡）を掘開し、新たな知見を得ることができました。



旧閑谷学校地内トレンチ位置

まず、従来から言われている縦横格子状に走る暗渠はトレンチ掘削部では把握できず、講堂南側に集中する暗渠のみの確認に留まりました。すなわち、広場には明瞭な暗渠施設はなく、石組み暗渠は講堂などの排水路として構造物南側を中心に付設された可能性が考えられます。また、石堀の調査では現在見えている部分より下に整備された石組みが1.85m以上続くことが確認されています。石組みは二つの段を持ち、上から計ると高さは3.0m以上になることが分かりました。

遺物はトレンチ2から備前焼の播り鉢片が出土しており、1300年代の古いものもありますが、1500年前後の年代を示すものが多いようです。

同トレンチでは旧閑谷学校設立（1674年）前と考えられる柱の穴などの遺構があり、備前焼が示す年代と同じ時期の可能性も考えられます。

（高畑知功）

調査第二課

平成12年度調査第二課は、昨年を引き続き2係全員（前半17名、後半19名）、奥津町において国土交通省苦田ダム建設に伴う発掘調査に従事しています。

今年度は、昨年行った久田原遺跡の残り部分と、その南側に広がる久田堀ノ内遺跡の全面調査を実施しています。

久田堀ノ内遺跡は、久田原遺跡と同じ久田下原にあり、中世の館跡が想定されていました。それは調査前において、北・東・南側の水田が一段低くなって堀状を呈し、これら堀に囲まれた内側に建物跡などが存在することが考えられていました。調査面積は周辺も含め約50,000㎡近くになります。さらにその下層には弥生時代・縄文時代の層があることが昨年までの調査でわかっていました。

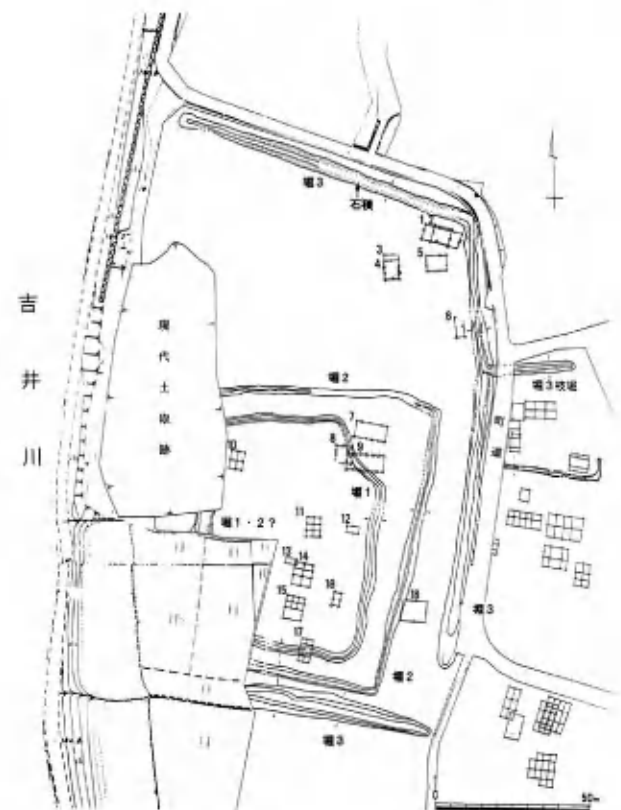
調査の結果、中世から近世にかけての三本の堀と掘立柱建物などが見つかりました。水田が一段低くなっていた部分は、一番外側の堀の跡で東西約140m、南北約190mあり、西側は吉井川によって区切られています。この堀によって方形に囲まれた館の面積は20,000㎡あります。この堀の北辺の西端部と、東辺と南辺の間が途切れていて、館への出入り口と考えられます。堀の幅はそれぞれ異なりますが5～8m、深さは1.6m前後あります。二本目の堀は、外側の堀の内側にあり、東西約70m、南北約100m、面積は推定6,100㎡あります。堀の幅は約4m、深さ1mで断面の形はV字状を呈しています。三本目の堀はさらに内側にあり、東西50m、南北75mで、推定面積3,500㎡です。幅は約3m、深さ1mで、断面はV字状を呈しています。内側二本の堀は、出土遺物などから、内側の堀が中世の中でも古く、順次拡大されていったものと考えられ、外側の堀は近世初頭には機能していなかったものと考えられます。これらの堀の内側から検出された掘立柱建物は現在の所18棟見つかりました。それぞれの堀に囲まれた建物があり、今後整理の段階でもう少し検討しなければなりません。館の外側で検出された建物群に比べ、規模は小さく、棟数も少ないのは、近世から現代の

建物が建っていたことによるかもしれません。これらの遺構は、弥生時代から古墳時代始めにかけての洪水砂礫層上に作られています。出土遺物については、在地産の土師器に加えて、勝間田焼・備前焼・亀山焼・尾張の瀬戸焼、三河の常滑焼・東播磨の魚住焼、中国の青磁・白磁・青花など各地域の土器・陶器・磁器などが出土しています。

いずれにしる県内では最大級の堀で囲まれた館の跡であり、室町時代の古文書に記された「久多庄」の実体を知る手がかりとなることと思われます。

下層からは、弥生時代中期前後の竪穴住居6、掘立柱建物4、竪穴遺構5、水田跡、溝、河道などが検出されています。縄文時代晩期には、袋状土壇、河道などがあり、その中から東日本で見られる大洞式の影響を受けた壺などが出土しています。また遺構は見つかりませんが、縄文時代後期のたわみ・包含層から多くの土器片（彦崎KⅡ式？）・石器などが出土しています。

（伊藤 晃）



久田堀ノ内遺跡（奥津町） 1/2500

●調査第三課

本年度の事業

第一係

- ・旭川放水路（百間川）（発掘調査）通年
（報告書作成）通年
- ・加茂奥津線（発掘調査）4月～8月
- ・是里農道（発掘調査）4月～9月
- ・県立図書館（発掘調査）10月～3月

第二係

- ・美作岡山道路〔熊山町・佐伯町〕
（発掘調査）通年
- ・国道313号線（発掘調査）4月～6月
（報告書作成）7月～12月

第三係

- ・吉備津松島線（発掘調査）通年
- ・矢掛寄島線（発掘調査）4月～9月
- ・ふるさと農道（発掘調査）10月～3月

発掘調査概要

旭川放水路の調査は、昨年度に引き続いて岡山市原尾島の百間川原尾島遺跡の4,680㎡を実施。微高地端部から低位部にかけて弥生前期～中世の遺構が見つかり、なかでも弥生前期の住居址2軒の検出や、同中期～後期末の水路の変遷と後期末の水田・水路の拡がりなどをさらに追究できたことが特筆されます。

加茂奥津線の調査は、苫田郡奥津町の福見口遺跡と大高下A・B遺跡などの約2,200㎡を実施。前者の調査地点は山裾の河岸段丘上にあたり、江戸後期～明治初頭の大鍛冶工房が見つかりました。床面からは2個一対の大鍛冶炉が3か所、ほかに土壌数基などが検出され、文献に現れる「末廣山鉄山」の鍛冶屋の中核と思われます。後二者は谷間の段丘上から、おもに縄文後期の300点を越す土器片の散布が認められ、A地点では落とし穴2・貯蔵穴2などの遺構もありました。

是里農道の調査は、赤磐郡吉井町是里の北坂奥遺跡の2,650㎡を実施し、弥生中期後半～後期初頭の時期を中心とする竪穴住居1、段状遺構14、土壌5等が見つかっています。

県立図書館の調査は、岡山市丸の内の岡山城二の丸跡（丸之内中学校の跡地部分）の2,700㎡を実施。内堀の石垣やそれに架かる外目安橋の

橋脚の一部、排水の石組み柵などが確認されました（詳細は本所報3頁参照）。

美作岡山道路（熊山町分）の調査は、赤磐郡熊山町岡の岡遺跡・同可真上の慶運寺跡と谷の前遺跡の一部を実施しました。前者は丘陵緩斜面に弥生中期後半～後期初頭の時期の竪穴住居8、段状遺構7、土壌6、掘立柱建物1、それに7世紀代の小竪穴式石室墳1等が、後二者は中世から江戸にかけての建物数軒・石組みの井戸や水路、中世墓（室町後期の備前焼の骨壺等11）や弥生後期の竪穴住居数軒などが見つかりました。出土遺物では岡遺跡の蛤刃石斧（全長23cm、未使用製品か）が注目されます。

同（佐伯町分）の調査は、和気郡佐伯町小坂の小坂1・4号墳、同才地の才地遺跡と調査中に見つかった才地古墳を実施。小坂1号墳は径7～8mの円墳で、主体部は全長4.5m、玄室幅1.4mの横穴式石室でした。床面から須恵器・土師器・棺釘などが出土。時期は7世紀前半と思われます。4号墳は墳丘の盛土が流出していて規模は不明でしたが、1号墳より一回り小さいと思われ、主体部は長さ2.6m、幅80cmの箱式石棺で、6世紀後半の須恵器が少量出土しています。才地遺跡は4,250㎡を実施し、丘陵裾部の斜面を段状に開削した部分に、弥生時代後期を中心とする時期の、50軒を越える竪穴住居と掘立柱建物1などが検出されました。これらの遺構のほとんどは建て替えや建て直しを示す切り合い関係にあり、後期の中で数軒から十数軒が集落を構成していたと思われます。また、住居の立地が北北西～



才地遺跡No.15・20住居（北から）

北西向きの、どちらかという急斜面に近い斜面が带状に利用されていることなど、一般的な弥生集落の占地とは異なる点が注目されます。才地古墳は径約13m、高さ80cmの円墳で、長さ約5m、玄室幅1.4mの横穴式石室をもつ。墳丘中央部は盗掘を受けていましたが床面までは至らず、床面の棺釘(14点)の位置から、2か所に埋葬主体の木棺の存在を認めました。副葬品は6世紀後半の須恵器(杯身・蓋19点、提瓶2点、有蓋埴1点)、土師器4点、鉄鏃2点、馬具(轡など



才地古墳遺物出土状態(北西から)

3点)、ガラス玉2点が見つっています。

国道313号線の調査は、昨年度の継続で真庭郡湯原町下湯原B遺跡の1,140㎡を実施し、古墳時代～古代の堅穴住居4、掘立柱建物1、溝1、土壙5などが検出されました。

吉備津松島線の調査は、岡山市新邸から藤ノ木までの全面と、藤ノ木から川入にかけての確認の計4,800㎡を実施し、郷ノ溝～藤ノ木調査区の微高地上では、弥生中期～古墳後期の溝が十数条と古墳時代の堅穴住居3、中世の水田区画などがまとまって発見されています。

矢掛寄島線の調査は、小田郡矢掛町の里山田下谷遺跡の約1,500㎡を実施し、弥生後期～中世の土壙11、河道1などがみつっています。

ふるさと農道の調査は、勝田郡勝央町の岡東高塚20号墳他と田井ちご池遺跡の約3,600㎡を実施し、前者は確認調査時の火葬墓のほか弥生後期の堅穴住居2、段状遺構1、勝間田焼の灰原の一部、後者は弥生後期の堅穴住居2、工房2などがありました。

(柳瀬昭彦)

中学生の職場体験学習

本年度も多くの方々が文化財センター展示室や発掘調査現場を見学にこられました。11月14、15日には、初々しい岡山市立吉備中学校2年生の男子生徒2名が、職場体験学習にきました。「体験活動を通して社会に貢献する大人の姿を知り、将来の進路の一助とするとともに、主体的に活動し学びとる喜びを体得する」という主旨で、本センターの仕事を2日間で体験したいとのことであった。1日目は、午前中にセンターの仕事の説明と館内施設の見学でした。午後は、岡山市川入の川入遺跡発掘現場に移動し、初めての発掘調査を体験しました。生徒は、初めて手にする古代の土器に感激するとともに、発掘調査の苦勞も感じていました。2日目は、センターで遺物の整理作業を手順に従って体験しました。まず土器の洗浄から始まり、土器の復元、土器の拓本、さらに遺物のトレースと盛りだくさんの1日でした。これらの作業の中で

は、ジグソーパズルのような楽しみのある土器の復元作業が一番気に入ったようでした。

生徒たちには、とまどいの2日間のようにでしたが、今回の体験学習を通じてすこしでも埋蔵文化財への関心を高めてもらいたいと思っています。さらに、将来生徒たちと一緒に仕事が出来ればとの思いを抱きつつ。(中野雅美)



土器の復元作業を楽しむ生徒たち

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧 (平成12年度)

遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積	
1	県内遺跡詳細分布調査	岡山県内	遺跡保護・保存	旧石器から中世	4.1~3.31	県内全域	
2		岡山市津島桑の木町	大蔵省国家公務員宿舍建設	試掘	弥生時代から中世の集落、水田	4.22~4.26	60㎡
3	津島江遺跡	岡山市学南町	岡山家庭裁判所職員宿舍・ 検察庁国家公務員宿舍建て替え	確認	弥生時代から中世の水田	6.14~6.21	75㎡
4		岡山市南方	広島高等裁判所岡山支部、岡山地方・家庭裁判所、 岡山簡易裁判所合同庁舎新築工事	試掘	弥生時代から中世の集落、水田	7.3~7.7	24㎡
5	上神代狐穴遺跡	阿哲郡哲西町大字上神代狐穴	那智中山岡地域総合整備事業(北備地区農道千子線)	確認	古墳時代の製鉄	7.3~7.28	131.5㎡
6	高松沼田遺跡	岡山市高松原古才	県立高松農業高等学校武道場建設	確認	中世から近世の水田	8.7~8.10	18㎡
7	名切遺跡	笠岡市西大島名切	主要地方道倉敷長浜笠岡線道路改築	確認	遺構確認されず	8.21~8.25	47.1㎡
8	平田遺跡	上房郡北房町上中津井	県営圃場整備(中津井地区)	確認	弥生時代から中世の集落	9.25~11.14	280㎡
9	山ノ奥遺跡ほか	勝田郡勝北町上村	農免農道整備事業(上村山形地区)	確認	弥生時代の集落、古代の散布地	11.6~11.24	210㎡
10	池東・途田遺跡	勝田郡勝北町西下	農免農道整備事業(上村山形地区)	試掘	弥生時代の集落、古代の墓地	2.19~3.19	310㎡
11	旧開谷学校	備前市開谷	特別史跡旧開谷学校環境整備	確認	近世の排水施設	1.9~3.8	120㎡
12	山崎古窯跡	備前市浦伊部	主要地方道磯上備前線改築工事	全面	中世備前焼窯跡	9.4~10.12	330㎡
13	高松田中遺跡ほか	岡山市高松田中ほか	岡山自動車道4車線化	全面	弥生時代から中世の集落、水田	4.10~9.30	1,900㎡
14	二宮遺跡	津山市二宮	一般国道53号線津山北バイパス建設事業	全面	弥生時代から近世の集落	10.3~12.27	1,500㎡
15	津島遺跡	岡山市いづみ町	岡山県陸上競技場改修	全面	弥生時代から近世の集落、水田	4.10~12.31	5,200㎡
16	津島遺跡	岡山市いづみ町	団体関連整備	確認	縄文時代から近世の集落、水田	10.1~12.31	701㎡
17	美作国府跡	津山市山北	都市計画道路大谷一宮線建設	確認	縄文時代から中世の集落	1.5~3.23	460㎡
18	久田堀ノ内遺跡ほか	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文時代から中世の集落、水田	4.1~3.31	36,720㎡
19	百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島地先	旭川放水路(百間川)改修	全面	縄文時代から近世の集落、水田	4.1~3.31	4,680㎡
20	福見口遺跡	苫田郡奥津町奥津川西	主要地方道加茂奥津線改良工事	全面	近世の製鉄	4.1~9.30	1,570㎡
21	大高下遺跡ほか	苫田郡奥津町養野	主要地方道加茂奥津線改良工事	全面	縄文時代の集落、近世の製鉄	7.6~8.31	640㎡
22	北坂奥遺跡	赤磐郡吉井町黒本字北坂奥	一般農道整備事業(是里2期地区)	全面	弥生時代の集落	4.1~9.30	2,650㎡
23	岡山城二の丸跡	岡山市丸の内	岡山県立図書館建設	全面	近世城郭、古代から中世の集落・水田	10.2~3.30	2,700㎡
24	岡遺跡	赤磐郡熊山町岡ほか	美作岡山道路建設	全面	弥生時代の集落、古墳	4.1~8.31	2,500㎡
25	慶運寺跡ほか	赤磐郡熊山町真上	美作岡山道路建設	全面	中世の寺院、弥生時代の集落	10.1~1.31	1,200㎡
26	小坂1・4号墳、才地遺跡	和気郡佐伯町小坂ほか	美作岡山道路建設	全面	弥生時代の集落、古墳	4.1~3.31	5,114㎡
27	下湯原B遺跡	真庭郡湯原町下湯原	一般国道313号改良事業	全面	古墳時代から中世の集落	4.1~6.30	1,140㎡
28	川入遺跡ほか	岡山市川入	一般県道吉備津松島線道路改築	全面	弥生時代から中世の集落、水田	4.10~3.22	4,800㎡
29	里山田下谷遺跡ほか	小田郡矢掛町里山田	主要地方道矢掛寄島線道路改築	全面	弥生時代から中世の集落	4.1~9.30	1,505㎡
30	南東原20号墳、田幸らご池遺跡ほか	勝田郡勝央町	ふるさと農道緊急整備事業	全面	弥生時代の集落、古代の墓地・ 生産遺構	10.2~3.30	3,495㎡



編集・発行
岡山県古代吉備文化財センター
 所在地 〒701-0136
 岡山市西花尻1325-3
 TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>
 ●交通案内
 ・JR山陽本線瀬原下車タクシー10分
 ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
 開館時間 AM9:00~PM5:00
 休館日 土曜日・日曜日および祝日、年末・年始